

第2節 「のへじふるさとカルタ」一覧



あ

あわ  
哀れな伝説

枇  
杷野川の

夜泣  
き石

夜泣き石  
枇杷野川の三番橋あたりに夜泣き石があります。  
「昔、舞師の親子が幸せに暮らしていましたが、狩に行  
つたまま父は帰ってきません。娘は、「父様、父様」  
と呼び続けました。いつしか泣き声が川のせせらぎ  
となりました。」父を待ち続ける娘は石となったとい  
う伝説があります。



い

いま  
今もなお健気な老木

西光  
寺の

シダレザクラ

シダレザクラ（町指定天然記念物）  
西光寺の境内に、樹齢三百年の桜があります。高  
さは約四・五メートル根の周りは約三メートルで二  
つに枝分かれし、春になるとしだれた枝にたくさん  
の花をつけます。美しいしだれ桜の花は、お寺を訪  
れる人たちの目を楽しませています。



う

うみ  
海を照らし

船  
を見守ってくれた

常夜  
燈

浜町の常夜燈（町指定史跡）  
一八二七年、廻船問屋野村治三郎が常夜燈を建て  
ました。江戸時代の野辺地湊には、多くの北前船が  
出入りしていました。船が安全に荷物を運べるよう  
にと明かりを灯し、沖からの目印としたと伝えられ  
ています。



え

えんえん  
延々と

牛の背  
で運ばれた

御用  
銅

御用銅  
一七六六年から盛岡藩の尾去沢、秋田県、銅山の  
銅は、野辺地湊へ一三六キロメートルの道のりを牛  
の背に積んで運ばれるようになりました。その行列  
は、一人の牛方が十数頭の牛をあやつり、山道や谷  
間を何日もかけて運ぶので大変な苦勞でした。御用  
銅は、野辺地湊から大阪へ船で積み出されました。